

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200744	事業の開始年月日	平成29年10月1日
		指定年月日	平成29年10月1日
法人名	湘南乃えん株式会社		
事業所名	グループホームえん		
所在地	(251-0861) 神奈川県藤沢市大庭5137-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年11月25日	評価結果 市町村受理日	令和4年7月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

第2の我が家として、家庭的な雰囲気でも過ごして頂くと同時に、近隣にはコンビニエンスストアがあり、ご家族了解のもと お一人で買物に行かれることもあります。また、新型コロナウイルス感染症に伴い、直接の面会など出来ない事もありますが、オンライン面会・ソーシャルディスタンスをとり短い時間となりますが面会を行ったりとさせていただいています。また、コンビニエンスストアへの買物ですが、混雑等密にならないよう配慮し行っております。入居者様の重度化に伴い医療との連携を行い、身体状況の悪化の防止及び認知症の進行の防止に重点をおいて取り組んでいます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年11月25日	評価機関 評価決定日	令和4年6月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR東海道線「辻堂」駅、或いは「藤沢」駅からバスで「舟地蔵」下車、徒歩4分です。同一法人の通所介護事業所が隣接しています。近隣に自然が楽しめる大庭城址公園、舟地蔵公園があります。大型商業施設、コンビニエンスストアもあり便利な住環境です。

<優れている点>

利用者が「これまでの生活ができるよう」に管理者と職員は入居時のアセスメントの重要性を認識し、生活歴等を理解することに努めています。入居後は利用者に対して積極的に関わりを持ち、利用者の状況、できることや思いの把握をしています。入居者がそれぞれできることを楽しみながら、生きがいをもって今までと同じように過ごせるように支援しています。法人の研究発表で事例を発表する、研修参加、各委員会活動、技能実習生育成などで、職員のスキルアップを図るとともに、職員間の連携やチーム全体で業務をする体制ができています。ポジショニングの研修受講後に他の職員と共有し、食事や歩行、車椅子使用時などに取り入れ、心身状態が改善するよう支援しています。

<工夫点>

コロナ禍のため、以前のような自由な面会は自粛していますが、家族の意向を尊重しています。電話の取次、家族の携帯電話での動画撮影、オンライン面会のほか、玄関脇で感染症予防対策のもと対面式の面会も再開しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームえん
ユニット名	1F さんご

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	現任者研修・〇〇えん研修を行い、同じ方針に向かい行っている。	法人の経営理念と基本方針は玄関や事務所に掲示し、実践を意識して業務を行っています。各会議、研修などで確認しあうほか、職員個別目標シートでの活用や、法人の「介護研究発表大会」では基本方針をテーマとした事例の発表で学びを深めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症の為に交流ができていません。	通所介護事業所利用者と日常的に交流しています。例年は自治会や地域の顔なじみの店舗も多く参加している催事に参加しています。中学生職業体験や看護学生実習も受け入れています。ボランティアによる書道、裁縫、映写会なども楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方の相談は随時対応しているが、新型コロナウイルス感染症の為に、中学生の職場体験等受入れを行っていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の為に、開催はできていない。（郵送にて施行）	運営推進会議に介護保険課職員、民生委員、自治会長、ボランティア、利用者家族、フロアの利用者全員などが参加しています。サービス実施の報告や情報交換を行い質の向上に努めています。現在はコロナ禍のため報告書を郵送しています。1月より対面会議再開予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	以前は藤沢市グループホーム連絡会がありましたが、現在は新型コロナウイルス感染症の為に開催は行っていないが、介護保険課・他事業所の管理者とは随時連絡をとっている。	行政の各担当部署と日ごろから協力関係を築いています。例年は藤沢市グループホーム連絡会の会議や研修に参加していますが、コロナ禍のため中止となっています。藤沢市の介護相談員の来訪は、再開予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置するとともに、現任者研修・〇〇えん研修にて対応している。また日中は施錠はせず、天気の良い日は玄関を開けて過ごしている。	身体拘束に関するマニュアル、身体拘束・虐待防止委員会マニュアルがあります。通所介護事業所、各フロアの職員が、対応や環境を確認し合う仕組みができています。利用者の生活パターンや行動を十分把握し、安全に配慮した上で日中はフロア出入口、事業所玄関の施錠をしていません。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待委員会を設置するとともに、現任者研修・〇〇えん研修にて対応している。また、常に会議等で話し合い随時検討等行っている。	高齢者虐待防止マニュアルがあります。重要事項説明書に虐待防止について明記しています。毎月、言葉使いや利用者対応を確認し合う仕組みがあります。経済的にも多大な負担にならないような介護の工夫を心がけています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様・ご家族の不安や疑問をくみ取り、十分な時間を設け説明し契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来訪時・電話等で意見・話を聞き反映するよう努めている。	毎月お便りに利用者の様子を記載し、家族に送付しています。事業所の行事や運営推進会議に家族が参加した折や、電話連絡、家族面会時に意見や要望を聞いています。家族意見などは利用者のケアプランや運営に反映させています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議・全体会議・運営会議を行い、日常の会話の中から職員の意見を聞き反映するよう努めている。	各会議や研修、打ち合わせ、面談などで、職員の意見、提案、要望を聞いています。日常の会話からも職員の希望、提案などを汲み取るよう努めています。利用者を尊重し、その人らしい生活が送れるような取り組みの意見は積極的に取り入れています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常に職員とのコミュニケーションをとるよう努め、OJT評価（同一賃金・同一労働）を行い、委員会の職員がメインとなり、各自の向上心が持てるよう行っている。	法人は「職員への責任」「わたしたちの行動」「コンプライアンス行動規範」を明示しています。各委員会の担当や、研修後、他職員へ伝えることで内容をより理解できるようにするなど、自主的に行動し、サービス向上に意欲が持てるように促しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人研修・1～3年目研修・現任者研修・役職者研修等を定期的に行っている。	「5つのえん」に基づいた人材を育成しています。法人主催の研修や、事業所での研修を定期的実施しています。個別目標シートの活用や、「介護研究発表大会」への参加、各委員会活動、外部研修受講、技能実習生の育成、毎日のカンファレンスなど各種行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は藤沢市グループホーム連絡会等を通じて、他事業所との連携を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の為にできていないが、新入職員は基礎研修があり、同僚の繋がりができている。（他事業所）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の出来る事・出来ない事・困っている事・生活習慣等、常にコミュニケーションをとり情報収集するとともに、行動観察記録などを使い、ご本人・ご家族の要望に寄り添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時・入居後もご家族に様子を伺い、困っている事・不安な事・要望等話をし情報収集を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	第1に入居者様の要望・希望をきき、第2にご家族の要望・希望をきき、計画書に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の気持ちを大切にし、残存機能の維持及び認知症の進行を遅らせるよう生活の中で、自分の出来る事を行って頂くとともに、家事等皆で助け合って生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には請求書と一緒に1ヵ月の生活面等の報告を行うとともに、現在困っている事等伝えたり、ご家族にとって、どのようになって欲しいか等一緒に考えたり行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前は馴染みの人や場所等行かれるよう努めてきてましたが、新型コロナウイルス感染症の為に出来なくなってきているが、馴染みのお店（配達してくれる人）に協力して頂き、ソーシャルディスタンスをとりながら、話等出来るよう努めている。	知人や友人との交流や来訪、なじみの店舗への買い物などはコロナ禍のため、自粛しています。店舗から物品を配達してもらった際の日常会話を楽しみにしています。家族と一緒に墓参りやドライブにも出かけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お互いにコミュニケーションをとれるよう支援するとともに、車いすを押す姿がみられたり、困っている時に声をかけ、職員を呼ぶ姿がみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても、いつでも連絡・相談等出来るように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやカンファレンスを行い、日常の会話や行動・仕草の中から情報収集を行い、ご家族に伝え検討している。	職員の気付きや日常の会話や行動、しぐさなどでモニタリングを行い、家族への「おたより」からの返信や、電話連絡から一人ひとりの思いや暮らし方の意向を聞き、把握しています。オンライン面会を通じて家族と利用者の思いを共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	1度の話からでは聞き取ることが困難なため、随時、ご本人・ご家族から話を聞き取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやカンファレンスを行い、日常の会話や行動・仕草の中から情報収集を行うと共に、場合によっては行動観察記録にて現状を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の意向やご家族の意向を確認するとともに、医療連携も行い、また状態変化した時は、カンファレンスやアセスメントを行い随時検討し作成している。	職員の気付きや見立て、家族の意向や往診医の意見をもとに利用者の意向を確認しています。一人ひとりのADLを含めたカンファレンス、アセスメントを行い、ケアプランを作成しています。状態が変化した時は、随時検討し作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画書の実施・生活の様子など記録に残すと共に、カンファレンス・会議等で話し合い、随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	以前は美容院等、ご家族が行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の為外出も難しい時がある為、えんの中で出来る事を提案し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	密にならないよう気を付けつつ、散歩・買物等行う事により、近隣の方に入居者様の事を知っていただき、安心して外に行かれるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	4か所の往診医との体制があるが、ご本人・ご家族の希望にて決めている。また、訪問診療の方はもちろんのこと、受診に行かれる方には、必要な情報をご家族に渡し、医療連携に努めている。	入居時に利用者や家族の要望を確認し、今までのかかりつけ医か、4ヶ所の協力医を選択しています。4ヶ所の内科往診医が月2回、歯科医が毎週1回往診に来ています。通院は原則家族対応とし、必要な情報は家族を通じて共有し、医療連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の看護職員には、随時職員から伝え対応し、また、日常の中での必要な事は、随時看護職員・訪問診療（看護師）に連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族受診の医師・看護師・ソーシャルワーカーとの情報交換を随時行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時説明を行い、早い段階から、ご家族医師等話し合いを行い、入居者様がどのように望んでいるのかなど話し合い取り組んでいる。	入居時に、運営規程をもとに重度化や看取りについて、本人や家族に説明しています。重度化した場合は、医師、看護師、職員と家族で話し合い、家族や本人の意向を確認、尊重して看取りの体制を整え、支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを読み返したり、会議等で話し合いを行っています。また、実際急変だったりみられたら、慣れている職員と共に関わり行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	以前は年1回消防署立ち合いでしたが、今年は2回にて計画をしている。また、防災委員会からの提案で、水害に対する避難訓練を行っている。	消防署立会いの避難訓練を年2回計画しています。防災委員会の提案で水害に対する2階への避難訓練を実施しています。併設するデイサービス施設の利用者も参加しています。非常時の備蓄品は、ローリングストック方式で防災委員会が管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今までの生活に近づけられるよう寄り添っています。また、会議・研修等で声かけ（接遇）について行うとともに、職員間でも（身体拘束委員会）お互いを注意できるように努めている。	職員は、入職時に法人研修と事業所配属時の受入れ研修で、利用者の人格尊重とプライバシー保護、接遇の研修を受けています。トイレ誘導では、さりげなく声かけし、誇りやプライバシーを守っています。職員間でも日々、相互確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望等、自己決定できるよう促し、そそのよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先にならないよう、1人ひとりのペースを大切にし、希望に寄り添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	指輪・ネックレス・腕時計等、今までの生活してきたスタイルで過ごせられるよう支援している。また、季節に合った洋服だったり、鏡をみてお化粧できるように努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一日の中で献立をつくる時間をとり、皆で考えている。また、買い物は新型コロナウイルス感染症の為大型スーパーには行かれていませんが、食事作り・片づけは皆で行っている。	献立は、利用者が職員と一緒に考えて作っていますので、1階と2階でそれぞれの献立となっています。利用者は、一人ひとりの持てる力を活かしながら、ゆで卵の皮むき、大根の皮むき、ゴボウのさがきなどの食事作りや配膳、食器洗いなど皆で楽しんで行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各自の食事摂取量等を把握し、その日の健康状態等にも注意し行っている。また、病歴で水分量にも制限がみられる方もいるため、医師等の連携にも気を付けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各入居者様毎に口腔ケアを行い、仕上げ磨き等も行っている。また、訪問歯科によるアドバイスを聞き随時確認を行い、口腔内の確認をし、訪問歯科の際報告を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄のサインを見逃さず、声かけ・案内を行っている。また、排泄パターンがとれていない方に関しては、排泄パターンを共有し失敗しないよう努めている。	24時間排泄チェック表から、利用者の排泄パターンを把握しています。利用者の排泄サインを見逃さず、さりげない声かけ誘導を行っています。排泄パターンが取れていない利用者は、排泄サインを見逃さずに、トイレと言わない声かけで誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認を行い、食材・運動・水分に気を付け、自然排便できるようにと止めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	衛生面や清潔保持の為最低でも週2回の入浴を行っています。1人で入浴できる方には、随時見守りを行い混乱していない確認を行っています。また、断られる方には職員を変えたりし対応しています。	入浴は、週2回を基本として、利用者の体調に合わせています。希望者には2回以上の入浴も支援しています。一人で入浴する利用者の場合は、さりげなく状況確認を行っています。確認を断る利用者には、声掛けの時間や職員を変えて対応しています。季節湯もあり楽しめるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の生活環境・体調等考え、休息したり、夜の睡眠時間等、無理せず安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診内容・服薬等、全職員が把握するとともに、処方された薬剤の効果・用途について、誰が何の薬を内服しているか毎月確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事等、自ら動かれる際は止める事はせず、無理なくやる遂げることができるよう支援しています。また、DSから入居された方も多いため、友達との関わり等大切に過ごして頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は新型コロナウイルス感染症の為外出等行かれなくなっていますが、コンビニエンスストアへの買物・散歩等、ご本人に希望に寄り添えるよう支援している。	新型コロナウイルス感染症の為、事業所としての遠出は自粛していますが、事業所の庭で散歩や外気浴も行っています。家族の了解を得て、一人で近くのコンビニエンスストアへ買い物、家族との墓参りやドライブなど利用者の外出希望に寄り添って支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物等行く際は、ご本人に財布を渡し、直接支払いをして頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望にて、電話したり 手紙を投函できるよう支援していますが、最近では認知症の症状が進行しているのが、あまりみられなくなっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な雰囲気を作るため、入居者様の写真・作品を掲示し会話を楽しめる空間をつくるよう心掛けています。また、新型コロナウイルス感染予防の為、入居者・職員と掃除・消毒等行っています。	リビングは、明るく清潔で、エアコンと空気清浄機、加湿器と濡れタオルで、適切な温湿度を確保しています。台所とは食器棚兼作業台で区切られていますが、ドアは無く開放的です。リビングや廊下には、イベントの写真や利用者の作品が掲示してあり、くつろげる空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング等では好きな席に座ることができ、気の合った人同士が話ができるように工夫し、居室で好きな事ができるよう支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅での雰囲気に近づけられるよう、使い慣れたものや好きな物を再現できるよう入居者様・ご家族と話をし対応しています。	居室には、クローゼット、エアコン、照明設備があります。入居時に利用者と家族に相談して、事業所でも自宅と同じような空間になるように、使い慣れたタンスや写真など好きな物を持ち込み再現しています。布団で過ごしている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各自出来る事は行って頂き、不安が内容考慮しつつ、段差・階段等、転倒・転落等配慮し行っている。		

事業所名	グループホームえん
ユニット名	2F さざん

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	現任者研修・〇〇えん研修を行い、同じ方針に向かい行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	手洗い・うがい・マスク着用を徹底して、空いている時間に近くのコンビニエンスストアへ行かれ交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方の相談は随時対応しているが、新型コロナウイルス感染症の為、中学生の職場体験等受入れを行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の為、開催はできていない。（郵送にて施行）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	以前は藤沢市グループホーム連絡会がありました。現在は新型コロナウイルス感染症の為開催は行っていないが、介護保険課・他事業所の管理者とは随時連絡をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置するとともに、現任者研修・〇〇えん研修にて対応している。また日中は施錠はせず、天気の良い日は玄関を開けて過ごしている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待委員会を設置するとともに、現任者研修・〇〇えん研修にて対応している。また、常に会議等で話し合い随時検討等行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様・ご家族の不安や疑問をくみ取り、十分な時間を設け説明し契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来訪時・電話等で意見・話を聞き反映するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議・全体会議・運営会議を行い、日常の会話の中から職員の意見を聞き反映するよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常に職員とのコミュニケーションをとるよう努め、OJT評価（同一賃金・同一労働）を行い、委員会の職員がメインとなり、各自の向上心が持てるよう行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人研修・1～3年目研修・現任者研修・役職者研修等を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	以前は藤沢市グループホーム連絡会等を通じて、他事業所との連携を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の為できていないが、新入職員は基礎研修があり、同僚の繋がりができている。（他事業所）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	各職員の意見により、モニタリングを行い、出来る事・困っている事に気づき、ケアプランに反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時・入居後もご家族に様子を伺い、困っている事・不安な事・要望等話をし情報収集を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	第1に入居者様の要望・希望をきき、第2にご家族の要望・希望をきき、計画書に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人が出来る事を増やして、役割のある生活をして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には請求書と一緒に1ヵ月の生活面等の報告を行うとともに、現在困っている事等伝えたり、ご家族にとって、どのようになって欲しいか等一緒に考えたり行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前は馴染みの人や場所等行かれるよう努めてきてましたが、新型コロナウイルス感染症の為出来なくなってきたが、馴染みのお店（配達してくれる人）に協力して頂き、ソーシャルディスタンスをとりながら、話等出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お互い励まし合いながら、利用者同士支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても、いつでも連絡・相談等出来るように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員の気づきでモニタリングを行い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	1度の話からでは聞き取ることが困難なため、随時、ご本人・ご家族から話を聞き取るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやカンファレンスを行い、日常の会話や行動・仕草の中から情報収集を行うと共に、場合によっては行動観察記録にて現状を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の意向やご家族の意向を確認するとともに、医療連携も行い、また状態変化した時は、カンファレンスやアセスメントを行い随時検討し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画書の実施・生活の様子など記録に残すと共に、カンファレンス・会議等で話し合い、随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	以前は美容院等、ご家族が行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の為外出も難しい時がある為、えんの中で出来る事を提案し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	密にならないよう気を付けつつ、散歩・買物等行う事により、近隣の方に入居者様の事を知っていただき、安心して外に行かれるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	4か所の往診医との体制があるが、ご本人・ご家族の希望にて決めている。また、訪問診療の方はもちろんのこと、受診に行かれる方には、必要な情報をご家族に渡し、医療連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の看護職員には、随時職員から伝え対応し、また、日常の中での必要な事は、随時看護職員・訪問診療（看護師）に連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族受診の医師・看護師・ソーシャルワーカーとの情報交換を随時行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時説明を行い、早い段階から、ご家族医師等話し合いを行い、入居者がどのように望んでいるのかなど話し合い取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを読み返したり、会議等で話し合いを行っています。また、実際急変だったりみられたら、慣れている職員と共に関わり行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	以前は年1回消防署立ち合いでしたが、今年は2回にて計画をしている。また、防災委員会からの提案で、水害に対する避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	今までの生活に近づけられるよう寄り添っています。また、会議・研修等で声かけ（接遇）について行うとともに、職員間でも（身体拘束委員会）お互いを注意できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望等、自己決定できるよう促し、そそるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先にならないよう、1人ひとりのペースを大切にし、希望に寄り添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	指輪・ネックレス・腕時計等、今までの生活してきたスタイルで過ごせられるよう支援している。また、季節に合った洋服だったり、鏡をみてお化粧できるよう努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一日の中で献立をつくる時間をとり、皆で考えている。また、買い物は新型コロナウイルス感染症の為大型スーパーには行かれていませんが、食事作り・片づけは皆で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各自の食事摂取量等を把握し、その日の健康状態等にも注意し行っている。また、病歴で水分量にも制限がみられる方もいるため、医師等の連携にも気を付けて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、各入居者様毎に口腔ケアを行い、仕上げ磨き等も行っている。また、訪問歯科によるアドバイスを聞き随時確認を行い、口腔内の確認をし、訪問歯科の際報告を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄のサインを見逃さず、声かけ・案内を行っている。また、排泄パターンがとれていない方に関しては、排泄パターンを共有し失敗しないよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の確認を行い、食材・運動・水分に気を付け、自然排便できるように止めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	衛生面や清潔保持の為最低でも週2回の入浴を行っています。1人で入浴できる方には、随時見守りを行い混乱していない確認を行っています。また、断られる方には職員を変えたりし対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の生活環境・体調等考え、休息したり、夜の睡眠時間等、無理せず安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診内容・服薬等、全職員が把握するとともに、処方された薬剤の効果・用途について、誰が何の薬を内服しているか毎月確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事等、自ら動かれる際は止める事はせず、無理なくやる遂げることができるよう支援しています。また、DSから入居された方も多いため、友達との関わり等大切に過ごして頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は新型コロナウイルス感染症の為外出等行かれなくなっていますが、コンビニエンスストアへの買物・散歩等、ご本人に希望に寄り添えるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買物等行く際は、ご本人に財布を渡し、直接支払いをして頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望にて、電話したり 手紙を投函できるよう支援していますが、最近では認知症の症状が進行しているのが、あまりみられなくなっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食事や季節の物を取入れたりして会話も弾んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング等では好きな席に座ることができ、気の合った人同士が話ができるように工夫し、居室で好きな事ができるよう支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅での雰囲気近づけられるよう、使い慣れたものや好きな物を再現できるよう入居者様・ご家族と話をし対応しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各自出来る事は行って頂き、不安が内容考慮しつつ、段差・階段等、転倒・転落等配慮し行っている。		

2021年度

事業所名 グループホームえん

作成日：2022年 7月 5日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		湘南乃えんの理念・目標などを把握し行動できるようにする。	理念・目標を把握し徹底を行い、各自目標をもって業務を行います。	研修・会議等で周知致します。	12ヶ月
2		新型コロナウイルス感染症の予防（消毒等）を行い、入居者様・職員の体調管理に気をつけます。	消毒等を行い、体調管理に気をつけ早期発見を行います。	一日2回、バイタル測定を行い、体調不慮等みられた際は、速やかに訪問診療などに依頼を行います。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月